

松が峠の「まぶ」

- ① 明治16年に掘られたトンネル。市道松の木菅線を登って川鳥に入る所に「まぶ」と言って長さ80mぐらいのトンネルがあった。両側は石垣積（高さ2m）で出入口両側2間（約3.6m）はアーチ型石組天井、その他の中間部分は厚板をへの字形に組み上げた木組み天井であった。間歩通路の両側には1尺幅ほどの水路もあり、石崖の間には沢蟹がいた。
- ② この道は、西城大佐より、鹿深峠、権現峠、松ヶ峠を経て菅から川西に至る、西城・東城を結ぶ備中路という往還道であった。
- ③ その後、幅員拡張と道路整備のため昭和50年から3年計画で「まぶ」の撤去が行われ（総工事費1億4千2百万円）舗装道に生まれ変わった。
- ④ 天井部分が木の枠組みで造られていて、昼間でも中程は薄暗く、「まぶ」にはこうもりが住み着いて、夜通る時、人々を驚かせた。時として、上から落ちる土砂のため、木枠が外れて道を塞ぎ通行止めがしばしばあった。こんな時には、峠から急な細い山道を登り大金池のそばに下りる難所であった。「まぶ」を通り、川鳥村に入ったあたりに、茶店や旅籠もあったという。
- ⑤ 資料によれば明治16年11月3日、開道の式を挙げるや沿道又は近村の人々は種々の振る舞い物を荷車数十輛に装積し、松ヶ峠隧道の西入口に新設したる祝場に集合す、とあり。



松ヶ峠のマブ (昭52)